

(様式2)

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590800015		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの小千谷福祉会		
事業所名	グループホームほのぼの(愛染ユニット)		
所在地	新潟県小千谷市川井1690番地		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◇小規模事業所の利点を生かし、食事は調理専属の管理栄養士が献立を立て、地産地消を基本にして化学調味料を出来るだけ使用せず、出汁(昆布+鰹節)を使用した、家庭料理を提供しています。また、地域の農家の方々から、新鮮な季節の野菜も沢山いただき、有効に使わせていただいています。</p> <p>◇小千谷市より委託を受けて行っている、認知症カフェ(オレンジカフェ)及びデイホーム事業(地域の茶の間)で認知症の理解を深めていただくよう、積極的な交流を図っています。</p> <p>◇新型コロナウイルス(COVID-19)感染症対策に努めました。長引く感染症対策で面会や外出制限が続きました。本来であればご自宅への外泊やご家族との温泉外泊、またみんなで夕食やお祭り見学、お花見など様々な催しを楽しんでいただいていたのですが、ご不便をおかけしました。</p> <p>そんな状況の中、職員一同、様々な工夫を行いご家族様と疎遠にならないように努めました。ご家族様には、ほのぼのの通信や毎月のお便りで近況を報告し、オンラインや窓越し面会を通じて交流を図っていただきました。</p> <p>ご家族様からも写真やお手紙を届けていただき、入居者様の笑顔がたくさん見られました。</p> <p>◇地域との交流やボランティア訪問も制限が続きましたが、自然豊かな環境を生かし、猛暑日の炎天下を避け木陰での茶話会や戸外でのレクリエーション活動、また地域の方の農作業風景で季節を感じ、気分転換を図っていただきました。</p> <p>◇今年度からは、地域の行事も行われるようになり、夜間の盆踊りや、運動会などにも、感染症対策に努めながら参加しており入居者様の笑顔も溢れております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は平成11年に民間のデイハウスとしてスタートし、その後、NPO法人を設立し、平成14年に1ユニットのグループホームを開始した。平成16年の中越地震の翌年には社会福祉法人を設立し、平成18年からはグループホームを2ユニットに増やすとともにデイサービスセンターを併設した。現在は、小千谷市から委託を受け、「地域の茶の間」や「認知症カフェ」を行うなど、地域の福祉活動の拠点としての役割を担っている。</p> <p>「その人らしく暮らす」という法人理念のもと、食事作りや掃除、洗濯物干しなど、利用者一人ひとりが得意なことを活かした役割を担い、生きがいをもって楽しく暮らせるよう支援を行っている。職員は、年度ごとの個人目標を掲げ、内部研修や外部研修にも積極的に参加し、質の高いケアの実践に向け取り組んでいる。法人理念が職員にしっかりと浸透し、職員間で協力し合う関係が出来ており、和やかな雰囲気の中で利用者支援が実施されている。</p> <p>地域との交流については、地域の祭りや町民運動会に参加したり、普段から声を掛け合うほか、町内会に加入し地域との情報交換を図ったり、地域住民から野菜や米などのおすそ分けをいただく等、普段付き合いが行われている。また、事業所の近くには大きな川もあり、災害リスクも高いことから、過去の震災経験を活かし、避難訓練には地元消防団や地域住民からも参加・協力を得たり、市内の協力介護保険事業所との連携を図る等、協力体制を築いている。</p> <p>事業所では、時代に合わせた福祉ニーズや支援の在り方を見据えながら、利用者一人ひとりを大切にケアに取り組んでいきたいと考えている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念の復唱を行い、日々の振り返りや意識付けとなっており、スタッフ間でも理念の共有・実践につながっている。 また、部署会議時(1回/月)には、理念に沿った対応がされているか、研鑽を行っている。年度末にはユニット全員で確認し次年度の目標につなげている。	法人の理念に基づき、ユニット毎の目標を掲げ、毎月行われるスタッフ会議や部署会議で理念の共有やケアの振り返りを行っている。職員採用時には、法人本部長から理念について説明するほか、採用後の研修や毎日行う理念の唱和を通し、職員一人ひとり日々のケアが理念に基づいて行われているか振り返りながら、利用者の支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、徐々に地域行事も以前の様に戻り、夜間の盆踊りや運動会などに参加させていただいている。また、地域の一員として回覧板をまわしていただいているので、町内行事や小千谷市の行政行事及びJA越後おぢやの行事など知ることができる。	地域の町内会に加入し、情報交換を図ったり、地域のお祭りや町民運動会に参加し、避難訓練には地元消防団も参加する等、地域とのつながりを大切に取り組んでいる。地域住民が自宅で取れた野菜を持ってきてくれたり、散歩の際に気にかけてくれる等の普段付き合いが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌「ほのぼの通信」を町内の回覧板で回してもらい施設内の様子を知っていただいている。認知症カフェ「オレンジカフェ」や認知症サポーター養成講座等で情報交換を行い、気軽に困りごとなどの話が出来る体制に努めている。介護予防事業の委託を受け「お茶の間」を3か所で開催しグループホームと交流も図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状をお話し、様々な立場の方からの想いをお聞きし、より良いサービスの向上に生かしています。新型コロナウイルス感染症対策に伴い、書面会議や入居者様の参加に制限があり、残念でした。	会議には市の担当者、町内会長、民生委員、地域住民代表など、地域の様々な立場の方々がメンバーとなっている。家族会代表が参加し、コロナ禍においてもできるだけ対面で行うよう努めている。スライドを使いながら利用者の様子を伝えたり、事業所の取り組みを報告、施設内を見学してもらい助言を得るなど、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に行政職員の参加があり、協力関係を築いている。 地域包括ケア会議等を通じ、行政との連携が図られている。	運営推進会議に参加してもらうことを通じ、市の担当者との顔の見える関係ができています。市が主催する会議や研修会に参加したり、情報交換を行う等、日常的に連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルや身体拘束適正化のための指針に沿って、全ての職員が把握、共通認識し、内部研修、外部研修で理解を含め取り組んでいる。また、毎月行われる管理会議では、身体拘束適正化についての議案に沿って話し合いが行われている。	身体拘束廃止の指針やマニュアルを整備し、研修にも取り組んでいる。重度化に伴い転倒リスクが高い利用者については家族に説明し、時間を区切り必要最小限で足元センサーを使用している。毎月の管理会議において状況の確認や対応についての検討を行い、身体拘束のないケアに向け取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内部研修を行い、職員一人一人振り返り、考える機会を設定している。ヒヤリハット報告については、毎月の会議で細かな状況を分析するとともに、改善に努めチームで共有している。	高齢者虐待防止の研修に取り組み、ユニット会議で不適切なケアについて職員間で話し合う機会を持っている。研修を通じて職員が虐待に対する認識を持ち、虐待防止に取り組んでいる。毎日のちょっとした気づきの段階で周知報告書を作成し、原因の分析を行い、ヒヤリハットや事故につながらないように努めている。法人本部長は年1回、職員との面談の機会を持つほか、日頃から職員の様子を見て声をかける等、職員へのケアにも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	小千谷市は地域包括支援センターが1か所なので、包括ケア会議等を通じて日常生活自立支援事業や成年後見制度について学びの機会や連携を図っている。また、実際に入所者の中に後見人制度を使われていた方や後見人になっている事務職員もいたので、活用した経験を基に支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される際には、契約内容を時間をかけて説明し、ご家族に理解納得していただいている。また、契約内容の見直しが必要な時は、家族会で協議していただき、承諾後にそれぞれのご家族に説明して同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回開催している家族会総会や面会時など、入居者様の日頃の様子をお伝えし、意見もお聞きしている。また、苦情や直接言いにくい意見や要望は、施設だけでなく、第三者委員、外部機関、家族会会長・副会長に発信できることの説明を行っている。	家族会総会や面会の際に、家族の意向や要望の聞き取りを行ったり、家族会の会長、副会長に協力いただき、家族が意見や要望を言いやすい環境づくりに取り組んでいる。利用者からは日頃の関わりの中で、意見や要望を聴きとるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の管理会議・スタッフ会議・ユニット会議で意見交換を行っている。また、日々の業務の中でも申し送りの時など、話せる環境づくりを行っている。事業本部長又は管理者は年2回、職員との個別面談を行い意見を聞き、より良い環境づくりに努めている。	毎月のユニット会議やスタッフ会議で出された意見は、管理会議へ報告し検討を行っている。職員の意見を基にキッチンの三角コーナーを止めてみる等、日頃から職員間で意見が言いやすい関係が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回、事業本部長による職員個別面談を行い、職員の想いや将来に対する要望について聞き取りを行い、その確認や助言を行っている。また、今の職場でどの様に実力を発揮してもらいたいかな等を伝え、本人との意思確認を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招き研修を行い、キャリアアップを図っている。個々の資格所得に向けて、奨励を図り、介護福祉士や社会福祉主事などを所得している。また、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、インターネットのズームでの研修も施設内で受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県認知症グループホーム協議会に加入し、情報提供をいただいている。また市内の医療機関や歯科衛生士会で行われる研修に参加しサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族から生活の様子や要望などのお話を傾聴し、センター方式を活用しニーズを見つけ出し、入所してからも安心して生活していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の担当ケアマネジャーやご家族からも情報を得ながら、要望をしっかり把握し信頼される関係づくりに努めている。特に入所された当初は、入所後の様子をご家族に頻回にお伝えさせていただき、相互理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の事前面談においても、それまで使われていたサービス担当者との連携の中からも状況の把握に努めたうえでご本人、ご家族の意見を傾聴しサービス導入時に細やかな視点で考え、チームで情報を共有し、支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のお好きな物、得意とされる事を一体となって共有し、喜びを分かち合えるように努めている。生活リハビリを通じて(野菜作りやお料理、裁縫など)職員も教えてもらう事も多く、一緒に生活させていただいている。また、気持ちよく過ごしていただける環境づくりに努め、入居者様、職員の信頼関係にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に来所出来、言いにくい事もお話しできる環境づくりに努めている。ご本人、ご家族の想いを大切に、一緒に感動を共有させていただいている。また、最近は感染症対策に伴い、面会の機会が減少したためご家族との絆が途切れないように、広報やアルバムで写真を届けたり電話での話や窓越し面会に努めた。	入居時に家族へ、利用者を共に支えていくことを説明し、外出支援や受診の付き添い、衣料を届けてもらう等、役割を担ってもらっている。職員は、家族が面会に訪れた際に利用者の状況を伝えたり、家族から話を伺うなど、日頃から気軽に話ができる関係づくりに努めている。また、利用者の日常をアルバムにまとめて家族に送付している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策で馴染みの人や場所との往来が途切れたがようやく再開がすすむようになってきている。特に美容室への外出には満足の笑みがこぼれている。面会人数制限も緩和され子ども様や孫様が来所の際には写真を撮らせていただき拡大して居室に飾っていただいている。	入居前に家族や居宅介護支援専門員から情報を得たり、入居後に得た情報をシートに追記している。コロナ禍においては電話や手紙などで馴染みの関係が途切れないよう工夫に努めてきた。家族に協力してもらい、生まれた家に行ってきたり、馴染みの美容院やお店に出かける機会を持つなど、これまでの関係が継続できるよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活をされる中で、その方のお好きな事を全員で共有できるよう、声掛け、関わりに努めている。また、入居者様同士の表情や声の調子などをよく観察し、友好的関係が保てるように支援を行い、気の合う方との座席等にも配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も市内の特養施設等に入所される方が多いので、入所先職員との交流もあり、フォローや相談に努めている。退所後のご家族から街中で様子をお聞きしたり、入所時の思い出話に花が咲くこともある。退所されたご家族から、当グループホームが良かったからと紹介されて入所希望される方もあり、職員の励みにもなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時には事前面談やケアマネージャーからの情報でご本人のお好きなこと、得意な事を尊重し生活の一部に加えられるよう努めている。また、センター方式を活用しユニット会議でチームで検討を行っている。	入居前に面談したり、入居後は居室担当を中心に意向の確認を行い、利用者一人ひとりの思いや意向を介護計画に反映させるよう努めている。日常の関わりや会話、表情などから得た情報は「センター方式」のアセスメントシートに詳しく記録し、職員間で共有し、意向に沿った支援を行うよう心がけている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前面談を行い、ご本人、ご家族からこれまでの生活歴や暮らし方を伺い、ケアマネージャー等の関係機関からも情報を得て、把握に努めている。	入居前に法人本部長と管理者が自宅を訪問し、暮らしの様子を確認し、入居後の暮らしに活かしている。入居前に得た情報は、「介護要約シート」に記載し共有を図っている。また、入居後に得た情報は「センター方式」のアセスメントシートに追記し、職員間で共有し支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の暮らし方への想いを尊重し、お好きなこと、得意とされること、健康状態を含めながら、みんなで検討し考え、今の状態を維持できるよう把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の想いを尊重し、気持ち良く過ごしていただけるよう、介護計画を作成している。職員がご家族も交えながら意見交換を行い、気づきを大切に一体となって、介護計画を作成している。また、3か月に1回のモニタリングでは、ご本人に想いを伺い、介護計画に結び付けられるよう作成している。	入居前の情報を基に管理者が暫定プランを作成し、その後は、居室担当職員が本人に意向の確認を行い、ユニット会議で話し合いを行ったり、法人の管理栄養士や看護師からも意見をもらいながら計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、状態変化時や年1回、計画の見直しを行っている。担当者会議には家族にも参加してもらい、意向の確認を行いながら計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな変化を見逃すことなく、関わらせていただいている。好みや想いも変化されるのでその都度、言動にも注意し介護計画の見直しを図っている。また、業務日誌(介護記録)をタブレット入力に変更したため、瞬時に個別の記録の検索ができ職員間の情報の共有が図られる利点につながった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所時のご本人やご家族の環境が非常に多様化しており、家族環境が一律ではないという社会情勢の中に於いて、事業所も多様な関わり方を必要とされている。体調悪化時の医療機関への受診対応、災害時の緊急避難対応など常にご家族との情報交換を大切に柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かな地域の特性を生かし、散歩や戸外活動で心身のリフレッシュを図っている。野菜の栽培や花を育てるなどで暮らしを楽しんでいただいている。中山間地の利を生かし、地域住民との親しい関係づくりができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医の継続を原則に、ご本人・ご家族の意向を伺い主治医を決め、月1回の往診を受けている。また、認知症の専門医を定期的受診される方もおられる。体調変化の際には、主治医に相談したり受診を行っている。また受診の際には、ご家族にも同行していただいたり常にご家族と連携を図り支援に努めている。	入居前からのかかりつけ医に往診してもらったり、家族に協力してもらい受診が継続できるよう支援を行っている。受診時には連絡票を用いて医師に状態を伝えるほか、必要に応じて医療機関と連絡を取り合う等、情報共有を図っている。認知症の進行状況に応じて専門医に相談を行う等、利用者が健やかに暮らせるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内は日中は、看護師が在中している。日頃から状態変化に伴い、報告、相談の様子をみてもらっている。また、1回/月は、特定の看護師が全入所者に話を伺いながら、バイタル測定を行い、定期往診の医師の記録を参考に容体の把握に努めている。かかりつけ医の看護師とは、常に相談ができる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院の際には、ご家族、医療関係者と連携を取りながら関わらせていただいている。協力医療機関として、厚生連小千谷総合病院・医療法人社団 慶友会 北村医院と契約を結び支援いただいている。また、退院後の関わり等についても相談し、より良い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族に入所時、緊急時対応について確認、意向をお聞きしている。事業所としてできること、サービス内容をお話し、共有している。また、重度化した場合の関わり方、方向性についても、かかりつけ主治医からご家族と共に説明を受けて、今後について共有を図っている。また、市内の特別養護老人ホームの相談員等の関係者との日頃の情報交換や関係づくりにも努めている。	入居時にリスク説明書を用いて、利用者・家族に事業所として出来ることの説明を行っている。利用者の状態変化時には医師から病状を説明してもらったり、その都度意向の確認を行いながら、利用者・家族の希望に添った住み替えができるよう支援を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、感染症対応、救急対応のマニュアルを整備し、内部研修で実施している。常に、小さな変化を見逃さないように努めている。年1回は救急救命士により、心肺蘇生及びAED使用の訓練を全職員で行っている。新型コロナウイルス感染症対策に伴い、発症時の対応についても研修を行っている。	緊急対応マニュアルを整備するほか、連絡体制簿や緊急時の個人ファイルを準備する等、緊急時すぐに対応できるよう備えている。マニュアルに基づき、感染症発生時の対応や救急対応の研修に取り組んでいる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害などの災害マニュアルを整備し見直しを行っている。毎年、消防署や地域の消防団と連携して訓練を行っている。また水害に備え、毎年市街地までの避難訓練を行っている。中越大震災の教訓を生かし3か月に1回の防災設備自主点検や、毎年10月には、食糧備蓄品及び災害時必要物品の点検を行っている。	災害時のマニュアルを基に、火災、地震、水害などの災害を想定した訓練を行っている。訓練には地域の消防団にも参加・協力いただく等、地域との協力体制を築いている。また、食料品や生活用品の備蓄のほか、原子力発電所事故への備えや市内の介護保険施設と協力体制を築くなど、災害に備えた体制づくりに取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「プライバシー保護の理解」の内部研修を行い、全職員が人格の尊重や言動に配慮した対応に努めている。また、朝の申し送り時には、対人援助職員としての心構えを復唱し、常に振り返りの場を設けている。	理念を基に研修に取り組んでいる。排泄や入浴などの場面では、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけや利用者のペースに合わせた支援を心掛けている。個人に関する記録やファイルはカギの掛かる棚に入れ管理する等、個人情報の取り扱いにも注意を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴する姿勢を忘れずに、想いを伝えやすい雰囲気づくりに努めている。職員の思い込みで受け止める事の無いように、チームで関わらせていただいている。月1回のユニット会議時には、気にかかる事を全員で検討し、入居者様の希望に沿えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の想いを尊重し、気持ち良く過ごしていただけるよう、介護計画を作成している。職員がご家族も交えながら意見交換を行い、気づきを大切に一体となって、介護計画を作成している。また、3か月に1回のモニタリングでは、ご本人に想いを伺い、介護計画に結び付けられるよう作成している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔後、入浴後に化粧水やヘアオイルで整えられたり、洋服のコーディネート等で本人が楽しみながら自己表現できるように関わらせていただいている。ご本人の好みの色やこだわりも大切にさせていただいている。感染症対策をしっかり行いながら美容室への外出を再開し喜んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を中心に、化学調味料を控えて出汁も昆布と鰹節を使用している。器も陶器を使用し盛り付けにもこだわっている。味噌汁の具材切りや米研ぎ、食器拭きなど入居者様のできる事をお手伝いしてもらっている。感染症対策で外食が困難でしたので、お寿司のテイクアウトも行いました。	利用者の得意なことを活かしながら、一緒に食事作りに取り組んでいる。法人の管理栄養士が作った献立を基に、地域住民から差し入れしてもらった野菜を使ったり、利用者の希望や体調に合わせた食事を提供する等、臨機応変に対応している。コロナ禍においては、テイクアウトやおやつ作りを通し、利用者が食事を楽しめるよう工夫し取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとの食事量及び1日の水分量の確認を行っている。管理栄養士による栄養バランスに配慮した献立となっている。またその方の状態に応じて提供の仕方を考え、細やかな配慮をしながら関わらせていただいている。食事時間のかかる方にも、その人のペースでゆっくり召し上がっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所で口腔ケアを行い、見守り声掛けを行いながら、出来るところはご自分で行っていただき、磨き残しは職員がチェックし、必要に応じて介助し清潔保持に努めている。また、必要な方には、協力歯科医療機関の歯科医の往診・治療も行われている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけおむつを使用しないでトイレで排泄する事を原則としている。排泄チェック表により、個々の排泄のパターンを把握し、その人に合わせた排泄用品や方法をスタッフで検討し自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況や習慣を把握し、トイレでの排泄ができるよう支援を行っている。利用者の排泄状況に応じた排泄用品や環境を検討し、利用者に合わせて支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人の生活リズム、運動量を確認しながら、食事量のチェック表及び排便チェック表に基づき、水分補給や繊維質の食事の摂取など職員で検討し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人お一人に合わせて声掛けを行い、着替えの準備や好みの洋服を選んでもらったり、気持ち良く楽しみながら入浴できるように、ゆっくりと関わらせていただいている。時には季節の薬草や入浴剤を使用し楽しんでいただいている。	利用者の体調や意向にあわせ、入浴の時間帯や曜日など柔軟に対応し、週3回は入浴している。散歩後に入浴に誘うなど、声かけのタイミングを工夫したり、入浴剤を使い入浴を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の自然なリズムを乱すことなく、安心して休んでいただけるような環境を整えるようにしている。ご家族に協力していただき、入所前の様子もお聞きしている。また、アロマをお好みの方には寝具にスプレーして安眠をサポートしたこともあった。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の処方箋に従い、ユニットリーダーが薬の配置を行い、朝・夕の申し送り時に再確認を行っている。処方されている薬については、職員は把握しており、症状の変化に伴い、申し送り時に報告を行っている。また、症状や状態によっては、直ぐに管理者に報告を行い、頓服薬等の服薬の指示を仰ぐ事になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人が役割を持ち、楽しんで生活していただけるように生活歴やお好きな趣味を把握し、日常生活に取り入れて活力や気分転換につながるように工夫し関わらせていただいている。役割については、家事援助のお手伝いは得意とされる方が多く、満足に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今までは地域の行事に参加したり、ご家族との温泉旅行の支援を行ったりお花見や紅葉見物などあらゆる機会を利用して、外出を行っていた。新型コロナウイルス感染症対策に伴い、外出が不可能になり、施設戸外の日光浴や散歩にとどめざるを得なかったが、5類移行に伴い、徐々に町内行事の夜間の盆踊りや運動会の参加が再開され喜ばれている。	家族に協力してもらい実家に出かけたり、受診の際にお店に立ち寄るなど、外出の機会が持てるよう支援を行っている。事業所周辺を散歩したり、敷地内の広場で日光浴を行う等、日頃から出来るだけ屋外に出かける機会を設けている。事業所では、地域行事への参加も再開し、今後はドライブや買い物なども再開していきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、外食やお買い物の際は、職員が同行し、会計時には、ご本人に支払ってもらうなど支援している。財布が手元ないと落ち着かない方には、ご家族と相談して持っていただき支払い等をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の想いを尊重して、電話での交流は盛んに行われている。特に新型コロナウイルス感染症対策に伴い、面会が出来ない間には、多くの電話やオンライン面会、お手紙の交流がありました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から居室に続く階段及び廊下と季節を感じていただけるように、入居者様と職員と一緒に作った壁面装飾がリビング迄続いている。あたたかさ、居心地の良い空間へとつなげるように居室やお手洗いのネームプレートにもこだわりを持ち、工夫している。	窓から見える景色には田畑や山々等、里山の風景が広がり、居心地の良い空間を作り出している。共用空間には、利用者と職員と一緒に作った作品や行事の写真を飾り、季節を感じるができるよう工夫している。リビングにはソファやイスを置き、一人で過ごしたり、何人かで過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに腰かける事で入居者様同士が談笑したり、読書をしたり、音楽を聴いたり、周りの様子をみられたり、自由な空間での声掛けを行うなど雰囲気づくりの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が大切にされている、馴染みの家具や写真を飾ることで、安心して居心地よく過ごしていただけるように努めている。また、趣味を生かした創作品などを飾り、楽しんでいるように工夫を行っている。	入居時に使い慣れた家具を持ってきてもらうよう伝え、位牌や思い出の写真、利用者の作品を飾る等、居室担当職員が利用者・家族と相談しながら、居室作りを行っている。利用者の身体状態や動線に考慮して家具の配置を工夫したり、緩衝材を取り付ける等、利用者が安全に過ごせるよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室プレートに解り易く写真を入れたり、季節感が現れるような壁面装飾をみんなで手作りしたり、トイレは「お手洗い」の表示に柔らかな表現に変えるなど、工夫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				